

Course number		U-LAS06 20008 LJ41					
Course title (and course title in English)		裁判制度入門 Introduction to the Judicial System		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Law Professor,TAKAO KOKUBO	
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Jurisprudence, Politics and Economics(Issues)	
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A	
				Number of credits		2	
Number of weekly time blocks		1		Class style		Lecture (Face-to-face course)	
				Year/semesters		2024・Second semester	
Days and periods		Tue.4		Target year		All students	
				Eligible students		For all majors	
[Overview and purpose of the course]							
<p>我が国の裁判制度は、近代西欧の制度を明治期に移植し、その後の社会の実情に即しながら発展してきたという沿革を持つ。制度そのものは、1889年公布の大日本帝国憲法下で一応の確立を見たが、1946年公布の日本国憲法の下で大きな変容を遂げた。1999年からおよそ10年間にわたる戦後最大のいわゆる司法制度改革に伴い、民事・刑事・行政・労働の各分野に広範囲に及ぶ制度改革が行われた。</p> <p>本講義では、これら裁判制度を巡る大きな変動に着目して現下において進行している各分野への影響と関連する諸問題等を念頭におきながら、21世紀における司法の課題と展望を考察するに不可欠な視点を得ることを目的とする。</p>							
[Course objectives]							
<ul style="list-style-type: none">・裁判制度に関わる組織とその担い手、民事・刑事・家事・少年等の各分野の手続の仕組み等についての基本的な知識を習得する。・学んだ内容を通して、裁判が社会・経済に及ぼす影響を正しく理解する能力の向上を図る。・基本的な法的思考方法（リーガルマインド）を身につける。							
[Course schedule and contents)]							
<p>基本的に以下の計画に従って講義を進める。もっとも、講義の進展状況や受講者の理解状況を見極めながら、順序や同一課題についての回数を変更することがある。</p> <p>1 イントロダクション（講義概要と司法権の意義など）</p> <p>2 裁判所の組織とその担い手</p> <p>3 検察庁の組織とその担い手</p> <p>4 弁護士の業務とその組織</p> <p>5 裁判制度の担い手の養成</p> <p>6 民事紛争解決システムの概要 1 民事紛争とその解決手段について その1</p> <p>7 民事紛争解決システムの概要 2 民事紛争とその解決手段について その2</p> <p>8 民事紛争解決システムの概要 3 民事訴訟について その1</p> <p>9 民事紛争解決システムの概要 4 民事訴訟について その2</p> <p>10 刑事裁判の概要 1 刑事訴訟について</p> <p>11 刑事裁判の概要 2 裁判員裁判について</p> <p>12 家庭裁判所の役割 1 家事事件の概要</p> <p>13 家庭裁判所の役割 2 少年事件の概要</p> <p>14 現代社会と裁判制度～司法制度改革の到達点と残された課題～</p> <p>（フィードバック方法は別途連絡する。）</p>							
Continue to 裁判制度入門(2)							

裁判制度入門(2)

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

小レポート（３回，計１００点）により評価する。
小レポートは全回提出を必須とする。
なお、提出した小レポートは返却しないので，各自，そのコピーを取って，講評に備えること。

[Textbooks]

市川・酒巻・山本『現代の裁判〔第7版〕』（有斐閣）ISBN:978-4-641-22095-9
なお，「六法」は必携である。ただし，種類が多いので，第１回授業の中で選択に関するアドバイスをする。

[References, etc.]

（References, etc.）
授業中に別途指示する。

[Study outside of class (preparation and review)]

授業中に別途指示する。

[Other information (office hours, etc.)]

裁判制度に関心を持つ者であればどのような学部にも所属する学生も歓迎する。